

# 算命学中庸

## 【初年】 4 3 回目

4 3 回目の授業はこのページからです。

授業科目           【十二大従星力学】 ③

【初年】 4 3 回目 【十二大従星力学③】 01

□ 十二大従星力学（じゅうにだいじゅうせいりきがく） ③ 回目

⇒ 天恍星（てんぴかせい）です。

天恍星 — 少年

天恍星は少年の時代の星です。

天貴星が〔3歳〕から小学生位までの児童でして。

そのつぎの時代ですから、中学生・高校生位に相当するというふうに考えて頂ければよろしいです。

天恍星 — 少年



中学生・高校生〔思春期の時代〕

中学生・高校生位の年代、ようするに思春期の少年・少女が、この天恍星の時代に相当します。

天貴星と天恍星はどこが違うのかといえは：

天貴星は〔思春期に入る前の児童の時代〕です。

天恍星は〔思春期に入った少年の時代〕になります。

天恍星の年代の特徴をいくつか挙げますと、心のなかで、将来に夢をふくらませる時代です。

「少年よ大志を抱け」大きな志をもって進みなさい

札幌農学校の教頭を辞して、日本を去る〔米国人・クラーク博士〕が教え子に残した言葉です。

## 心に夢をふくらませる

心に夢をもつような時代です。

将来、こんな仕事に就きたいとか、こういう結婚をしたいとか、このような人生を渡ってみたいとか……  
いろいろな夢をもつでしょう。

プロ野球の選手になりたい、サッカー選手になりたい、  
科学者になりたいとか、さまざま分野に夢を描く時代  
であるはずです。

女の子であれば、女優になりたいとか、歌手になりたい  
とか、芸術家になりたいとか、いろいろでしょう。  
女子アナウンサーとか、警察官・公務員というのも、  
希望職種の種類のような感じです。

男女ともに、華やかな世界に憧れる時代でもあります。

向井千秋さんは、中学時代に医師を目指し、慶應義塾  
大学病院時代は女性の外科医・第一号、その後には、  
日本人の女性宇宙飛行士・第一号です。

中学生・高校生位の時代は、まだ社会に出ていません。  
世の中にまだ出ていないということは、現実の<sup>ありよう</sup>有様に  
直面していないわけですから、どうしても華やかな世  
界に興味をもちますし、憧れるでしょう。

心に夢を持つ時代といいましたが、特に華やかな世界  
に憧れる質をもっているのです。

### 特に華やかな世界に憧れる

参考・有様〔物事の状態。様子。ありさま〕

参考・社会〔人々が集まって共同生活を営む形態。その際に利害・目  
的などに基づいて人為的につくられた組織立ったものも  
ある。つまり利害関心によって結びつく社会もある〕

参考・世〔人が生まれてから死ぬまでの期間。時の流れにある区分〕

〔人間が互いにかかわりをもって生活を営んでいる場〕

参考・世の中〔社会人として生きる個々の人間が、誰しもそこから逃  
げることができない宿命を負わされているこの世。〕

一般に、そこには複雑な人間関係がもたらす矛盾とか、怒り、喜び、  
失望を抱かせる面とか、悲哀とかもが混在する〕

高校生でも、高校3年生位になって、就職が目の前に迫ってくるとか、あるいは、進学が目の前に迫ってくれば、自分が現在<sup>いま</sup>おかれている環境などを考慮して、現実に即した人生設計を考えなければいけなくなるわけですが、思春期はまだ社会に出る前なので、現実的な人生設計よりも、どうしても自分の夢や希望のほう<sup>ほう</sup>が優先しやすいといえます。

社会に出る前といいましたが、中学を卒業して、社会に飛び出す人もおられます。たとえ社会に飛びだしても、個々の胸のなかに膨らんだ希望・夢・志はあるでしょう。

現在の時代<sup>いま</sup>で華やかな世界といえ、芸能界が代表でしょう。

天恍星の時代は、そのような華やかな世界に憧れるわけですが、芸能界には“アイドル”と呼ばれる年代のタレントがいつの時代にも必ずいます。

アイドル（あこがれの人気者）と呼ばれる人たちは、大抵この位の年齢でアイドルになります。

氷川きよしは、年配女性の応援がすごいらしいです。

わたくしは、これらの事情に詳しくありません。間違っているかもです。

女の子ではAKB48 ですか、このタレントたちには、男性のファンも多いそうです。

歌唱力ということでは、30代・40代のプロ歌手のほうがはるかにうまいでしょう。それでも10代の歌手のほうが、人気が高まることもあるでしょう。

そこで……なぜこの年代のアイドルのほうが、大人のタレントよりも、人気が出たりするのかと考えると、まずその理由の一番は年齢が若いからです。

天恍星の年代だからです。

この年代は、ほかの時代には無い輝きをもっているのです。天恍星を〔アイドルの星〕ともいいます。

この年代特有の輝き・魅力をもっている時代なのです。華やかな世界に憧れる、そのようにいいましたけど、ただ憧れるだけではなくて、華やかな世界に向いている星なのです。

#### 華やかな世界に向く

芸能人には、天恍星をもっている人が多いです。

もちろん全てとはいえませんが、ほかの星に比べれば

天恍星をもっている人が多いのです。

アイドルの世界だけでなく、〔たとえば〕高校野球ですが、毎年、甲子園で高校野球やります。

高校野球が、なぜ人気を博すのかと考えますと、野球の技術だけでいえば、大学野球と比較してどうでしょうか……、社会人野球に比べたらどうでしょう……、ましてや、プロにはおよばないでしょう。

それなのに、大学生の試合とか、社会人の試合よりも、高校野球のほうが、観客が集まるとかするのは、競技しているのが高校生です。大人でないからです。

まだ大人になっていないから、現実的なしがらみもないですし、その意味で、大人からみれば純粹に野球に打ち込んでいる彼らの姿が、まわりの人を感動させるチカラをもっているのです。

そして、実際にそのなかから、将来的に有望な選手が輩出されています。スカウトされています。

選手たちの“<sup>ひたむ</sup>直向きさ”一生懸命プレイしている姿をまわりの人たちが認めてくれるわけです。

そういうチカラを秘めているのです。

華やかな世界に向いている星というのは、そこに居るだけで、明るい雰囲気のようなもの醸<sup>かも</sup>し出<sup>だ</sup>しているといえます。

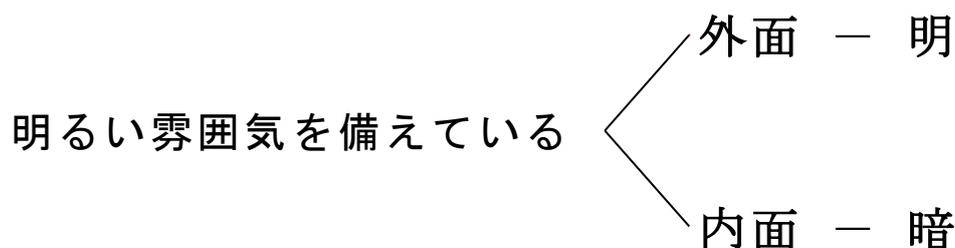
### 明るい雰囲気を備えている

〔たとえば〕電車に乗っていても、中学生とか高校生のグループが乗ってきたら、すごくにぎやかで明るく見えます。箸が転がってもおかしい年代、という言い方をしますが、キャアキャア、ワーワー騒いだり、はしゃいだり、そういう明るい雰囲気をもつ時代です。

天恍星はそのような質をもっています。

その様相が天恍星の特徴になります。

⇒ 「明るい雰囲気をもっている」という部分ですが、これについては……、



外面は明るいのですが、思春期はなにかと問題が多い

時代でもあります。

内面には、葛藤、悩み、喜び、苦しみ、不安、期待といった問題を抱えていることが多いといえます。

中学生・高校生が友達同士で、明るくワイワイやってみた目は明るく見えます。

しかし、その一人一人はそれなりに、なにか悩みを抱えているとか、複雑な思いを胸内にとどめて<sup>むねうち</sup>いる場合が多いはずです。それもこの時代の特徴なのです。

内面には、暗い闇ともいえるものを抱えています。といえるのが、この星の特徴のひとつです。

思春期で—— 中学生・高校生の時代といいましたが、言葉を換えていえば：

### 子供から大人へ成長をとげる時代

この時代は、子供から大人へ、成長を遂げる時代です。思春期の年代は、子供ではなく……かといって、大人でもないわけです。

大人と子供の間が思春期です。

子供から大人へ成長する、変身する時代が思春期です。

そこで考えて頂きたいのですが「子供と大人の違い」  
それって何なのでしょう――。

身体はどんどん成長して、大人の体型になっていきま  
すが、体が大きくなっても“こころ”の内面ないめんが大人に  
なれない人もいます。

参考・内面〔人間の精神・心理に関する面〕

精神的に子供と大人では、どこが違うのか考えれば、  
一番大きな違いは親離れです。

### 親離れの時代

思春期の時代は親離れの時代です。

端的に言えば、これが子供と大人の違いなのです。

親を頼って生きるのは子供

親を頼らないで生きるのは大人

親を頼って生きるのが子供です。

親を頼らないで生きるのが大人です。

子供が小学生位までは、親の後をくっついて行ったり、家に帰ると「お母さんはどこ」って、すぐ親を捜<sup>さが</sup>します。何をするにしても、親に頼ったり、甘えたりしながら生きていきます。子供はそれでよいのです。

でも、大人になれば親がいなくても、自分のチカラで生きて行かなくてはならないはずです。

親を頼らず、自分のチカラで生きて行こうとする精神が身につけば大人です。

このように考えています。

よく小学生位までは、お父さん子だったり、お母さん子だったりした子供が、中学生になると、急に親と口を聞かなくなったり、親に反抗するようになっていたりすることが多いです。

その姿を通常「反抗期」と言っていますが、算命学では、反抗期ではなくて「親離れをする時代」だと考えています。

親と一緒に居るのがイヤになったり、親と居るよりも友達と居るほうが楽しくなったり、親に大事なことを

話さなくなるとか、そういう変化が現れるのは当たり前前でして、それは正常なのです。

何故かといえば、それは『親離れ』をしようとしている姿だからです。

どんな人でも、思春期になればそういう傾向がでるはずで

す。天恍星をもっている人は、親離れをするべき時代の星をそなえているわけですから、親離れをすることが、人生における最大の焦点であり、人生の分岐点ぶんきてんになります。

つまり、天恍星をもっている人は、実際にこのくらいの年代で、親離れできるのか、親離れできないのか、人生が上へ行くか、下へ行くかの分かれ道になります。この年代で、もし親離れができないと、一生大人になり切れないことが起こります。

この年代で、もし親離れができないと

一生大人になり切れない

天恍星をもっていない人にも——このことについてはある程度はいえますが、特に天恍星を宿命にもつ人は、親離れの時代の星があるわけです。

星があるのに、思春期の時代に親離れができなければ、将来に渡って、大人になり切れないと考えています。つまり、「親を頼らないで生きて行く」とする精神がそなわっていない人になります。

親離れができれば、真っ当な大人になれます。

親離れができないと、大人になり切れないで、精神が子供のままという人になってしまいます。

〔たとえば〕その典型はマザコンです。

天恍星の男性で、思春期に親離れできないと、だいたいまザコンになります。

いつもお母さんを頼って、幾つになっても、お母さんの言いなりになって、30になっても、40になっても、お母さんに大事なことを決めてもらう。という人間になって行きます。

マザコンだけでなく、ファザコンということもあり得

ますし、パラサイトもあります。

〔マザコン〕〔ファザコン〕〔パラサイト〕 などなど。

思春期の時代で、大人になり切れないということは、マザコンになったり、ファザコンになったり、あるいはパラサイト的な人になってしまいます。

〔たとえば〕フリーターやっています。といっても、小遣いを稼ぐときだけアルバイトして、実生活は親元で暮らしているから心配ないというふうに、いつまでも親に寄生しているような人になってしまいます。

〔50 の長男が、80 の親に金よこせ〕 といって、よこさないと怒って殺害したとか——似たような事件が報道されたりします。あれは、親離れが出来ない天怱星の最も悪い姿です。もちろん、誰もがそのような事件を起こすわけではありませんが、それも出方の一つです。2020 年 11 月 16 日、渋谷区のバス停で所持金 8 円の女性がコンビニ袋に石を入れた袋で殴られて殺害されました。近所の資産家で酒店を営む女性の息子〔46 歳〕が犯人でした。母親に付き添われて自主したそうです。いかが思います？

〔たとえば〕三田佳子の次男に『天恍星』はありません。  
ゆえに天恍星とは限りません。彼の場合には母親・三田佳子が大きく影響しています。勉強する機会もあるでしょう。

＊ 三田佳子 1941(s16)-5-29

	己	丁	辛		鳳閣星	天将星	1 戊戌
午	丑	酉	巳	貫索星	鳳閣星	玉堂星	11 己亥
癸			戊	天庫星	龍高星	天貴星	21 庚子
	辛		庚				31 辛丑
	己	辛	丙				41 壬寅
							51 癸卯

＊ 高橋<sup>ゆうや</sup>裕也 1979(s54)-12-9 〔三田佳子の次男〕

	庚	丙	己		玉堂星	天南星	1 乙亥
寅	戌	子	未	石門星	調舒星	牽牛星	11 甲戌
卯	辛		丁	天堂星	車騎星	天極星	21 癸酉
	丁		乙				31 壬申
	戊	癸	己				41 辛未

☞ 『天恍星』にもどります。

天恍星の人はこの時代に親離れができれば、立派な大人になります。そして、親を頼らず自分のチカラで生きていけば、自然と人生が成功のほうへ向かいます。

加筆します……親離れが出来ないと、一生大人になれないとか、マザコンやパラサイトだということですが、

〔たとえば〕その場合に――寄生虫が宿主しゆくしゆとしていて親が死んだらどうかなのかですが……親が死んでも、一生大人になり切れないことに変わりないのです。

つぎには、親ではなくて、まわりの誰かを頼るようになります。兄弟を頼るとか、結婚すれば夫や妻を一方的に頼るとか、歳をとったら子供を頼るとか、そのように誰かに面倒を看てもらわないと、生きて行くゆことができない。そのような人物になってしまいます。

もし……天恍星をもっている宿命の人物のことで相談に来たら、その人に対象人物の生き方をよくお訊きして、その人物が〔親離れができていない人なのか〕〔できていない人なのか〕ということを見分ける必要があります。

その部分で、占いも大きく二つに分かれます。

⇒ 実際に親元から離れるのも、親離れではありますが、ここで申し上げている“親離れ”はあくまでも精神的な親離れです。

〔たとえば〕 親と一緒に暮らしていて、なおかつ親の跡を継いでいる状況であっても、本人が精神的に自立できてれば、それは親離れできていることになります。実際には、親から離れていなくても、家から出ていなくても、精神的には親離れができているということもとうぜん有り得るわけです

それゆえに、占うときには――、  
天恍星をもっている子供がいつまでも甘ったれていて、なんでも親がかりで、親に頼り、高校生位になってもお母さんが居ないとどうしようもなく、お母さんにいつもくっついているのです。

と、相談者が述べたとすれば、「なるべく早く、無理矢理でも離しなさい」というように勧めたりもします。

この思春期の時代――親離れをなすべき時期に、親離れさせないと、もう間に合わなくなるからです。

☞ もうひとつ、思春期の大きな特徴があります。

それはつぎのように考えています。

この時代、人間は必ずといってよいほど、初恋を経験するという現象があります。

### 初恋を経験する

どうでしょう、皆さまもこの頃、初恋を経験したかと  
想いますけど……。

昨今は、おませなお子さんが多いですから、もう少し  
早いかも知れませんね――。

〔たとえば〕「私の初恋は幼稚園の頃、一緒によく遊ん  
だ〇〇ちゃんだ」とか、いったりする人いますけど、  
それは初恋ではないのです。

幼稚園といえ、完全な子供ですから、相手を異性と  
して意識していませんので、それは初恋とはいえない  
わけです。

それは単に仲のいい友達なのです。

ここでのテーマは思春期です。

思春期になると、男も女も、肉体そのものが変わりますし、内面の心・内面の想いも変化するわけです。

参考・内面〔人間の精神・心理に関する面〕

この年代になると、初めて相手を異性として意識して、初恋のような淡い想いを抱きます。

そういう年代なのです。

ゆえに、思春期は――、

**生まれて初めて、異性を異性として意識する**

生まれて初めて、異性を異性として意識する……。

そういう時代が思春期なのです。

小学校の低学年とか、幼稚園とか、その位の年代の子が、「ぼくは〇〇子ちゃんが好き」だとか、「わたしは〇〇ちゃんが好き」だとかいっても、それは異性として意識していません。

その子たちに「じゃあ、あなた達一緒にお風呂に入んなさい」っていったら、「ワーイ」って言って、一緒に入

りますよね。

それは異性として全然意識してないからです。

でも、中学生・高校生位になって、「私は何々さんが好きなの」といって、「じゃあ、あなた達一緒にお風呂に入んなさい」といわれても、「ワーイ」って喜んで入りませんよね。

それは、もう意識していますから「そんなことは絶対できないわっ」そういうふうになるはずですよ。

それで、この時代の初恋を考えてみて頂きたいのですが、ご自分の経験でもいいですよ――。

〔たとえば〕中学生のとき、おなじクラスの誰々さんに、初恋のような恋心を抱いたということがあったとしたら、なんでその人を好きになったのでしょうか？  
好きになった理由は何なののでしょうか？

通学する途中で、毎朝出合う……名前も知らない……  
その人を恋するようになってしまったの……そういうこともあるでしょう……。

名前も知らない、しゃべったこともない、その人になんで恋心を抱いてしまうのでしょうか？

その人のどこがよいのでしょうか？

そう。外見ですか――。

どこが印象的だったのでしょうか。

顔がいいとか、スタイルがいいとか――、

よくいう理由に〔やさしそうだとか〕〔スポーツマンみたいだからとか〕〔カッコいいとか〕〔勉強がよくできそうだとか〕理由はそれなりにいろいろと想いますけど……。

もっと最大の理由があるはずですよ。

それは――異性だからです。

外見が気に入ったとしても、外見が異性の外見だからです。

それで初恋の人はこのような人でしたと、いったときに、じゃあ、その人がもし居なかったら、初恋を経験しなかったのか――というと、そうではないはずです。

その初恋の人がおなじクラスに居なかったとしたら、別の異性の誰かに初恋をしたはずですよ。

初恋って、そういう恋心なのではありませんか……。

初恋をした当人に理由を訊けば、「あの人がカッコいいから」とか、「あの人はすごく優しいから」とか、そのような理由を、つけるかも知れませんが、でも、その人が居なかったら、初恋をしなかったのかといえは……絶対そんなことはないはずです。

必ず、そのおなじ位の時期に、ほかの人に初恋をしたはずです。

初恋——そういうものではありませんか……。

毎朝、通学の途中で出会う、名前も知らない、話したこともない……相手の人格もわからないわけですね。相手が将来どういう生き方をする人なのか、まったくわからないのに、好きになってしまうわけですから、その相手の性格・人格に惚れたわけではないのです。頼もしいと思って好きになったわけではないですよ。相手が高収入なので、好きになったわけではないわけですね。仕事ができる人だから、好きになったわけではないですよ。だって実際に逢ったこともない人です。そこで考えられる最大の理由はなにかといえは——『相手が異性』だからです。

生まれて初めて異性を意識すると書きましたけど……、一言でいえば、異性を好きになる時代なのです。



### 思春期は異性を好きになる時代

ゆえに、中学生・高校生位だと、つぎのようなこともあるはずですよ。

それは実際にまわりにいる人に、初恋するのではなくて、テレビで観るタレントに恋心を抱<sup>いだ</sup>いてしまって、もう、初恋とおなじような感情をタレントにもってしまふ。そういうことはよくあるでしょう。

悪くいえば、相手は誰でもいいわけですよ。

異性のなかで、少し自分が気に入りそうな相手であれば、誰でもいいわけですよ。

その気持は、心底<sup>しんそこ</sup>その人を好きになるのではなくて、異性を好きになる時代だからです。

『天恍星』 そのものが、異性に憧<sup>あこが</sup>れやすいという特徴をもっています。

天恍星をもっていると、異性に憧れやすい

異性に憧れやすい星であると同時に、異性のほうからも憧れられてしまう質もっています。

天恍星をもっていると、異性から憧れられやすい

自分が異性を意識して、相手を好きになるという質と、自分自身が異性から、憧れられる対象になるという質をもっている星なのです。

それゆえに、〔異性に憧れる〕〔異性から憧れられる〕ということが悪く出ると、異性関係が乱れる可能性があります。

悪く出るのか、良く出るのか、それはさきほど書いた“親離れ”の分かれ道に焦点があります。

親離れが出来ない天恍星は、異性関係が乱れやすい

親離れができないと、異性関係が乱れやすいです。

さきほど〔マザコン〕〔ファザコン〕〔パラサイト〕とか、書きましたが、そのような出方になる可能性もあります。親離れしていなければ、精神的に“甘ったれた人間”にしかたないわけです。

“異性に憧れる”といえ、よく聞こえますが、端的にいえ、<sup>“惚れっぽい”</sup>のです。

すぐ惚れちゃう、すぐ本気になってしまいます。

[たとえば] 男性でもキャバクラに飲みに行ったら、キャバ嬢に優しくされて、その気になって本当に惚れちゃって、お金を<sup>みつ</sup>貢いでしまふとか、そのような姿になりやすいのです。女性ならホストクラブです。

それはまるで、思春期の中学生が異性に<sup>あこが</sup>憧れるとか、好きになるのとおなじレベルなわけです。

なんでその人を好きになったのかを訊くと、理由は本人もわかっていなくて、なんとなく好きになってしまうのです。

親離れができていない天恍星が大人になって、結婚した後、好きな異性が出てくると、浮気では済まなくて、本気になってしまうということも起こります。

そのために、結局は異性関係が乱れる……結婚もうまくいかない……そのようになっていきます。

これは一般でいうところのプレイボーイとは違います。

天恍星はまだ大人になれていませんから、よくいえば、人が善<sup>い</sup>いわけです。

子供が大人に騙<sup>だま</sup>されやすいのとおなじようなレベルなので、天恍星は騙<sup>だま</sup>されやすいわけです。

自分が上手に遊ぶのではなくて、自分のほうが本気になってしまうのです。

子供の感覚なので、遊ばれちゃうわけです。

そういう乱れ方をします。

本人は遊ばれてしまうのです。

親離れができている天恍星なら大丈夫です。

仮に、遊ぶようなことがあっても、遊びはあそびとして割り切れます。

⇒ **天南星**（てんなんせい）です。

## 天南星 — 青年〔20代〕

天南星は青年の時代の星です

思春期を超えたつぎの時代なので、20代といえます。

年齢的には若者の時代と、考えればよいですね。

ここから大人の時代に入ります。

## 天南星から大人の時代に入る

天恍星は思春期で子供と大人の間でした。そのつぎの世代なので、20代の若者と考えて頂きたいのです。

さて、この年代・時代がほかのどの時代よりも勝っている部分は为什么呢。そう。まずは体力です。

ここから大人の時代に入ります。と書きましたけど、ここは大人の時代に入る最初です。

肉体は、成長期が終わって、完成したばかりですから老化は始まっていません。

肉体は一生のなかで、最強の状態です。

### 肉体は一生のなかで最強

年代としての肉体は、中学生・高校生よりも、20代のほうが強いでしょう。

肉体は30を過ぎると、だんだん衰えていきます。

一生のなかでは、青年の時代が一番、最強だといえる時代であるはずです。

ところがです。

肉体の強さに比べて、精神のほうはどうでしょう。

20代の若者の精神はしっかりしているのでしょうか……。

精神ということでは、まだ若いから未熟です。

肉体は最強なのに、精神は未熟な時代です。

### 精神 ⇒ 未熟

それが悪いということではなくて、この部分が年代の特徴だと考えるのです。

肉体は最強で、若くて元気です。ら、行動力や前進力は、たっぷりある時代です。



行動力・前進力

若いので無理も効きますし、少々無茶なことをやっても、お酒の好きな人は、一晩中飲んで騒いでも、つぎの日、一日休めば回復するくらい、肉体は若くて元気な時代です。

ほかの時代にないような、行動力・前進力をだせる星なのですが、その行動をどの方向へ放出するのか、どこへ向かって前進するのか、それをコントロールして、決定するのは精神のほうです。

その精神のほうはまだ若くて、人生経験も足りませんので、さまざまに未熟なところあります。

せっかくの行動力をどっちのほうへ、使えばよいのかの判断が出来にくい時代なのです。

どうしてもその行動は一方づきやすい質があります。

## 行動が一方づきやすい

極端に言えば——まるで馬車馬ばしやうまのように、四囲しいに目を配くばることなく、前しか見えなくなるとか、なにか夢中になるものが出てくると、ドンドンそっちへ向かって突き進んでしまう。そのような傾向をもっています。世の中にでたばかりの若者なので、過激な行動にもなりますし、世の中の常識とか、善悪の判断をするには、欠けている部分があるわけです。

参考・馬車馬〔わき見をしないように目の両側に覆おおいをつけた馬〕

〔脇見もふらず物事をひたむきにする例え〕

かなり前の 2004 年に、香田証正さん〔24 歳か 25 歳〕はイラクで人質になって、首を切り落とされて殺害されました。彼の年齢が 10 年ほど経った〔34 歳〕であれば、日本国政府が危険レベル最高を出して呼びかけていたので、普通は旅行に行くことはないでしょう。

昨今では

20 代という年代はどうしても先走さきばしる傾向があります。

参考・先走る〔はやまって独りよがりに判断をする〕

どなたでも 20 代のときは、30 代・40 代に比べれば、無鉄砲なところがあるわけです。

常識とか、善悪の判断に欠けていたりします。

参考・常識 [健全な社会人、一般人が持ち、また、もっている知識]

[たとえば] 車を運転して高速道路で、ものすごいスピードをだすとか、横の車に抜かれたらむきになって抜き返すとか、そのように行動が一方づきやすくなります。特に天南星をもっているとかなりやすいです。ほかの十大主星も関係してきますよ。

それが、30 代、40 代、50 代になれば、だんだんとそういうことは、なくなってくるはずですが。個人差はありますけど、減ってきますよね。

無茶な事はだんだんしなくなるし、常識がわかってきますし、家族があれば責任も存在します。

こういうときは危険だからと、避けるようになります。年代とともに、そのようになってきますけど、それがまだ十分に備わっていない時代ですから、どうしても一つのことに向かうと、他をかえりみないのです。

言葉を換えれば、何事もやり方が強引になりやすいです。

### やり方が強引になりやすい

天南星は、これをやろうと思ったら、そこしか見えなくなってしまう傾向があり、強引に、無理にでもやろうする特徴を備えている星です。

その行動は一方づいてまわりが見えなくて、一生懸命に突っ走ってしまったときに“その道は正しかった”ということも有り得るわけです。

その正しい道をひたすらに突っ走って行きますから、成功したときの度合いも大きくなります。

ところがです……。

“正しくない方向”へどんどん進んでしまっただけで、深みに落ち込もうとしていることに、気がつかないでいることがあります。悪い方向へ突進したためです。

ゆえに、天南星は成功した場合も大きくなりやすいし、不成功の場合も大きくなりやすいのです。

**成功した場合も、大きくなりやすい**

**不成功した場合も、大きくなりやすい**

天南星をもつ人が、なにか商売はじめると、一生懸命に前進して行く質があります。しかも一途いちずになるものですから、たまたま当たってうまく行ったときの成功は大きくなります。

しかし、失敗のほうへ傾いて進んでいても、一方づく傾向がありますから、なかなか気がつかないのです。結局大きな借金を抱えるまで、突き進んで行ってしまふことになります。

ほかの星の人であれば、これはチョットうまくないなと思えば、途中で引き返すところですけど、天南星は失敗が大きくなってからでないと、気がつかないという無鉄砲な面があります。

これは商売に限ったことではなくて、何事にもこのような行動傾向をもっています。

参考・づく [……の傾向が生じる、出てくる]

参考・批評 [物事の良い点・悪い点を論じる]

そして——大人になったばかりで、経験に乏しいのに批判力があります。

### 批判力がある

まだ若くて社会に出たばかりの時代です。

仕事にしても、結婚にしても、人生のさまざまな物事に対して、よくいえば理想に燃えています。

そうしますと、自分の考え方、理想と違うことがあれば、手厳しく批判するという批判力を持っています。

参考・理想〔現実を考えることのできる最高に望ましい状態〕

参考・批判〔物事の善悪を徹底的に指摘して判定・評価する〕

1989年6月4日に起きた「天安門事件」は中国の天安門広場で、政府に反抗して戦車の前に出て行ったのは、みんなこの年代の若者です。

日本でも過去に、よく学生運動が起きましたが、昔の東大紛争とか、日本赤軍とかに関わった若者は、みんなこの年代です。

日本政府に少しでも悪い所があれば、相手が政府だろうと、何だろうと手厳しく批判して、立ち向かおうとする年代です。

☞ 幕末から明治治維にかけて活躍した志士たちも、この年代の人物が多くいます。30代で死んでいる人も多いです。

坂本龍馬は『天南星』をもっていました。

天南星はよくいえば、<sup>きがい</sup>気概があるのですが、批判力をもっています。相手が強い立場の人でも立ち向って行くという激しさあります。

参考・気概 [進んで物事をなそうとする<sup>きせい</sup>氣勢。困難に<sup>くじ</sup>挫けない強さ]

行動力・前進力をそなえているのですが、一方づいてしまう傾向があります。

これが良い方向へ発揮されれば素晴らしいですよ。

それでは——天南星のチカラを良い方向へ発揮させるためには、どうすればよいのかです。

それには、目的をもつことが必要なのです。

### 明確な目的をもつ

その目的も、すぐに達成できてしまうような目的だと、達成した瞬間から、目的を見失うのとおなじことになります。つまり、目的が無くなることとおなじです。

そうなると、チカラを発揮する方向が、どっちのほうへ行ったらよいか<sup>わか</sup>判らなくて、悪いほうへ向かってしまう可能性も出てきます。

それを防ぐために、特に大きな目的をもつほうがよいのです。

簡単には達成できないような目的といえます。

明確で特に大きな目的のほうがよい

これも天南星にとっては大事なところで、小さな目的だと、すぐに達成出来てしまいます。

それでは達成した瞬間に、目的が無くなった、目的を見失ったのとおなじです。

それなら、自分が目指したものよりも、なかなか達成できそうもない、もっと大きな目的を目指します。

それに向かって真っ直ぐに進んでいける星なのです。

⇒ このことは天南星の時代より——もっと子供の頃からやるとよいのです。つまり、天南星の子供には、なるべく高い目標を与えてあげるとよいわけです。

小さい目標ではなくて、むしろ“達成するのは大変だな”と想えるくらいの目標のほうがよいのです。

〔たとえば〕子供がテストで 50 点取ってきたら「つぎは 60 点取りなさい」でも、そんな目標ではすぐに達成できちゃうかも知れませんよね。

『天南星』には、そういう目標ではダメですね。

50 点を取ったら「つぎは 90 点以上取りなさい——」  
取ったらあなたが欲しがっていた〇〇〇を買ってあげるわよとか、親はそういってもよろしいでしょう。

そういう高い目標が良いのです。

チョットその子には、達成が難しいのではないかと、おもえる位の目標のほうが、天南星には合っています。

もちろん大人になれば、親にそのようにいわれなくても、自分で高い目標を設定することです。

自分で達成できるとおもわれる、最大限まで目標を高めることです。自分にとって大きすぎる位の目標を、いつも目指すとよろしいですね。

そして、精神が未熟な時代の星ですから、自分で勝手に目標をつくって進んでも、その目標自体が間違っているというころもあります。

昔の日本赤軍だとか、あるいは、オウム的事件を起こした幹部たちのほとんどこの年代でした。

これが正しいことなのかどうなのか……という判断が未熟なためにつかないのです。

自分で勝手に目標を立てると、間違っている可能性もあるわけです。

ゆえに、目標については、相談できる人が必要です。特に自分にとって重要だと思う事案は相談するとよいですね。

特に重要なことは、まわりに相談して決めるとよい

天南星の人は自分で勝手に決めないで、自分の人生に関わること、何かを始めたいときは、まわりに相談してから決めるとよいのです。その意味で、よきアドバイザーになってくれる人物の存在があると、天南星の人はより大きなチカラを発揮できる大人に育ちます。

〔たとえば〕 20 代といえ、結婚もあるでしょう。

好きな人が出来て、本人はその人と結婚したいと想い焦がれも……人生経験が豊富な人が相手を観たときに、この結婚は明らかにうまくいかないとか、この二人は合わないとか、そういうふうに感じたり、かいま見えたりすることもあるはずです。

ゆえに、自分で決断するまえに相談するとよいのです。しかし、だれでもよいとはいきませんよね。

人生経験の豊富な目上の人の方が良いですけども、その人物の人格、人間性もありますから、気心の知れた年長者とかになるでしょう。

冷静に人物を観察すれば、その人物が見えてきます。それらの人に一応相談するとか、意見を訊いたうえで決めればよいのです。

参考・人間性〔生まれながらの人間らしさ。人物の人柄〕

自分が未熟なわけですから、そのような人を日頃から、つくっておくのもよいでしょう。

そういう癖を普段からつけておくと、悪い方向に進むことが少なくなります。

天南星は“精神が未熟”と何回も書きましたが、精神のほうがりっかりすれば、自分でもキチンとした判断ができるようになるわけです。

肉体が最強なのですから、精神もしっかりしていれば、それこそ“鬼に金棒”なはずです。

この時代は肉体が強なのに、精神はまだ若いために、未熟なところが多々あるので、肉体に比べると、精神はまだ弱いわけです。

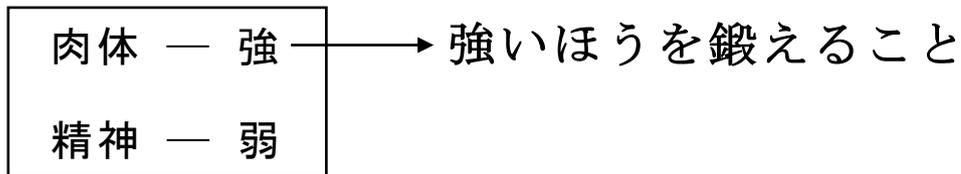
肉体	—	強
精神	—	弱

それが天南星の時代における精神と肉体の姿です。

そうしますと、精神がりっかりするためには、肉体と精神どちらを鍛えればよいのでしょうか……。

このことは算命学の原則でして『身強・身弱・身中』のところでもなびました。 ➡

〔こちらが強です〕〔こちらが弱です〕と算命学の勉強にでたときは、必ず、強いほうを鍛えてください。



人体図に知恵の星をもっている人ほど、勉強しなくてはいけない、頭をつかわなくてはいけない。と学んだのとおなじです。

〔肉体が強〕で〔精神が弱〕なら、肉体のほうを鍛えることで、精神がしっかりしてくるようになります。

「鉄は熱いうちに鍛えよ」といいますが、肉体が強いときに鍛えておくのです。

元気なときに鍛えておくほうが、効果があるはずですよ。

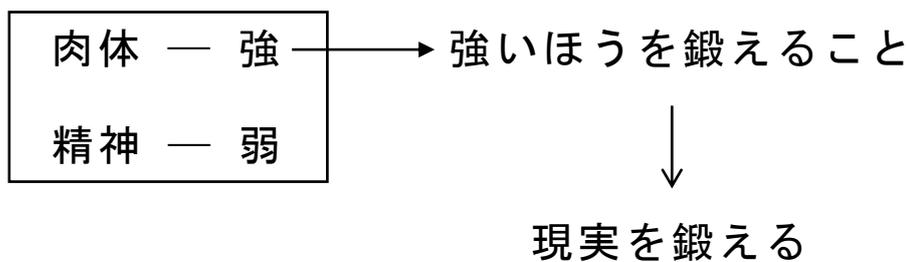
〔たとえば〕山に入って修行している行者は、真冬でも、滝に打たれる<sup>ぎょう</sup>行をしています。あれは肉体を鍛えているのではないのです。肉体をいじめることで、精神を鍛えようとしているのです。しかし危険です。

中庸学ちゅうようがくはあのような滝行たきぎょうをやりなさいとは、決していいません。あの行は『魔まに魂たまを支配しはいされてしまう』ことが多いのです。眼には見えない魔界のものが、意識に入り込みます。

⇒ 算命学の勉強に話をもどします。

体が元気なうちに鍛えてこそ、体もしっかりしますが、ともに精神もしっかりします。

算命学で「肉体」と「精神」という言葉をつかうときには、常に肉体は「=現実」と、言葉を置き換えて考えます。



物事は現実的なことと、精神的なことに分けられます。

肉体は現実なのです。 「物もお金も現実に入ります」

『天南星』は肉体、あるいは現実を鍛えるのです。

“鍛える”というのは、“苦勞をする”ことと言い換えてもよいのです。

## 肉体・現実を鍛える = 現実面で苦勞する

肉体であれば、肉体を鍛える。

苦勞を味わう、<sup>つら</sup>辛いことを味わう、という意味です。

現代であれば、子供ならスポーツなどは、特によいと  
考えています。

一生懸命に走るとか、剣道や柔道でも、合気道でも、  
練習ですごく<sup>つら</sup>辛い経験をして、鍛えられることで精神  
がしっかりした人になっていきます。

それゆえに、肉体を鍛えるのでも、苦勞をしてもよい  
のです。

なにかを一生懸命に練習するとか、肉体の苦勞という  
ことでは、〔たとえば〕病気もそうです。

小さい頃から病弱で慢性的は病気にかかったりして、  
病気と戦う、その<sup>しんく</sup>辛苦を味わうと、天南星の人は伸び  
ていきます。立派な人になって行きます。

つまり、普通の子供以上につらい苦勞を、実際に経験  
して感じ取るほうが天南星に合っているのです。

肉体的な苦痛とか、苦しい気持を体験した天南星は、  
人間的には伸びますし、運勢も伸びて行きます。

参考・人間的〔感情が人間らしい性質。思いやり〕

参考・辛苦〔つらいめにあって苦しむこと〕

「現実を鍛える」という意味として、お金は精神的な物質ではありません。現実に入ります。

それらを鍛えるということは、物・お金の面で苦勞することでもよいのです。

家が貧しかったので、小さい頃からお金でとても苦勞しました。ということであれば、自然にその人は鍛えられて立派な人になっていくのです。

このことは、つぎのように考えればよいでしょう。



**肉体面、現実面で甘やかされて育つと伸びなくなる**

肉体面、現実面で甘やかされて育つと、天南星の子供は伸びなくなります。

つまり、過保護で育ってしまうと伸びません。

それは精神が弱いままで成長するからです。

**精神が未熟で、弱のままになってしまう**

精神が<sup>じゃく</sup>弱で頼りない、あてにならない人になります。

小さい頃から肉体的にすごく楽で、楽どころか——、親が何でも手を貸してくれる。洋服を着替えるのも、親が手伝ってくれるから、体をほとんど動かさなくてもいいし、お風呂に入れば親が頭を洗ってくれるから、自分はただ座っているだけでいいとか、何事もそうですが、[たとえば] ちょっと寒いと、親がすぐ寒いから温めようと言って、暖房つけたり、温かい服に着替えさせてくれたり、そのようにして育ってきて、なおその上に、現実面で物やお金でも苦労せず、充分に与えられて育ってしまうと、大人に育たないのです。つまり、真っ当な人間にならないのです。

<sup>こんく</sup>困苦を経験して感じ取っていないと、精神がまったく鍛えられていません。しっかりしていないのです。

[たとえば] 肉体の苦労もなく、現実の物事で甘やかされて育った天南星の子供が、学校へ行って苛められると、精神が弱いままなので、<sup>くじ</sup>挫けてしまいます。つまり、子供であれば登校拒否になります。成長しても“引きこもり”の状態に陥りやすいのです。

“精神が弱<sup>じゃく</sup>のまま”なので、学校でチョットした嫌なことがあると、“もう行きたくない”というふうになるわけです。これは大人になっても、変らないですよ。

大人になって、会社に勤めて、上司に怒られたから、もう行きたくない、あんな上司のいるところでは働きたくない。それで辞めてしまう。

別の所へ勤めても、当然イヤな事は、いつかは起こります。そうするとまた辞めたくなくなってしまいます。

行きたくないという『弱』に陥ってしまうのです。

そんなふうにして、伸びない人になります。

⇒ 肉体面・現実面で鍛えられている、あるいは、苦労・困難を体験している天南星だと、肉体のほうも、精神のほうも、しっかりした人物になっています。

それゆえに、少々つらい事があるろうと、苦しい事があるろうと、押し寄せる波になんとか立ち向かい、それを乗り越える方法を自分で考えて、一生懸命に取り組むことで、順調に波に乗って行くことが出来る人になります。簡単に言えば、甘やかしてはいけないのです。

特に現実的なことで、過保護にして育ててはいけない星です。

さきほど『物もお金も現実に入ります』と書きましたが、算命学では、時間も現実に入ります。

### 現実 ⇒ 『物・お金・そして時間』

“時間を鍛える” その言い方は適当ではないかも知れませんが、時間的に苦勞するという意味なのです。

つまり、時間的に楽じゃない“時間に追われて忙しい”ということでもよいわけです。

〔たとえば〕子供の頃に、学校へ通うのに2時間もかかったとします。

そうすると、ほかの子よりも、早起きしなくてはなりませんよね。

家に帰って来るにしても、ほかの子より遅くなります。

それだけ時間的に、ハンディキャップ（不利な事柄・条件）を負います。そのくらいの不利な事柄を背負ったほうが、天南星にとっては良いと考えています。

つまり、その子を鍛えることにつながるわけです。  
時間というのは、そのような意味にもつかえます。

肉体か、現実か、時間か、このいずれかで鍛えるとよいですね。あるいは、親に鍛えられるとよいですね。  
このように考えてください。

お断りしておきますが、<sup>こいじ</sup>子虐めは絶対駄目ですよ。

肉体も楽で、物やお金もたっぷりもらえて、時間的にも車で送り迎えしてもらって、<sup>ひま</sup>暇があればゲームばかりやっていたり、テレビばかり観ていたり、そのような子供時代を過ごしてしまうと、天南星はダメになります。

⇒ 十二大従星のなかで『天南星』のほかに身強の星が2つあります。

それは『天禄星』と『天将星』です。

『天南星』 青年の時代

『天禄星』 壮年の時代

『天将星』 家長の時代

青年・壮年・家長、この三つの時代は特に一生のなかでも、世の中においても、最もチカラが発揮できると考えられる時代です

天南星より若いと、中学生・高校生の時代になりますから、まだ世の中でチカラを発揮できません。

天将星の家長の時代より、もっと後になってしまうと、今度は歳としを取り過ぎてしまうと、老人の星ですから、世の中でチカラを発揮しにくくなります。

そうしますと、ちょうど一生の内で、一番働き盛りといえる年代は、この三つの時代になるわけです。

そういう意味で、この三つの星が、エネルギーの勢い  
があって強い星なわけです。

【天南星】 青年	}	エネルギーの強い星
【天禄星】 壮年		
【天将星】 家		

十二大従星のなかで、この三つがエネルギーの強い星  
だと覚えておいて頂きたいのです。

このことは、人体図を見るたびに必要になります。

占いをするうえでも必須です。

人体図を見るときには、天将・天禄・天南のどれかを  
もっている人、つまり身強の星を〔もっている人〕と  
〔もっていない人〕とに分けて考えるのです。

つまり、〔強い星がある人〕と〔強い星がない人〕と、  
いうように、大きく二種類に分類されます。

天南星のところで、「肉体や現実を鍛えるとよい」と  
い言いました。「甘やかされると伸びない」とも言った

わけです。そのことは天南星だけに限らず、天禄星と天将星をもっている人にも当て嵌まります。

【天南星】 【天禄星】 【天将星】 これら三つの星は

〔甘やかされて育つといけませんよ〕

〔むしろ、厳しくされたほうがいいですよ〕

〔過保護に育ててはいけませんよ〕

そういう星だとおもってください。い。

もうすでに大人になってしまったりとか、中年になってしまったりとか、その年代で肉体とか現実で苦勞するというのは、実際には“もう遅い”ともいえるのです。

そこで時間的なアドバイスが必要になります。

〔たとえば〕おなじ40代であっても、ほかの40代の人に比べて、それ以上に忙しい毎日を送ってください。

というふうにアドバイスしてください。

エネルギーを使わないと病気のとくに苦しむということも起こり得ます。エネルギーが余っていて“死ぬに死ねない”ということもあるのです。

エネルギー強い星はエネルギーッシュな生き方が合っているわけです。せつかく強いエネルギーがあるのに、

消費しないで、楽な生活をしていたら、エネルギーが  
どんどん余ります。「余ったエネルギーは腐ります」と、  
いいますが、運勢の上でもマイナス要因になります。

⇒ 誰でも十二大従星は、人体図に3星もっていますか  
ら、3つを総合的に観たとき「この子は弱い星が3つ  
ありますから、少し大事に育てたほうが伸びますよ」  
と、アドバイスする宿命も実際にあるのです。  
それは、また勉強にでてきます。

ここまで、十二大従星力学の勉強をしてきました。

『十二大従星』は、12個の従星がありますから、あと  
7つ従星が残っています。

天禄星・天将星・天堂星・天胡星・天極星・天庫星・天馳星  
です。

それぞれの星にはエネルギー指数があります。

それについても、勉強していくことになります。

【初年】 4 3 回目【十二大従星力学③】 終わります

つぎの授業 ⇒ 【初年】 4 4 回目【十二大従星力学④】 です。